

○ 9 番（山口良広君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま、議長より登壇の許可を得ました 9 番、自由民主党、山口良広です。どうぞよろしくお願いします。

まず、今回の一般質問では、日本の食料事情について報告し、今の食料政策がどうなっているかをお尋ねしたいと思います。手元に配っております資料をごらんの上、説明を聞いてもらえば幸いです。

皆さん御存じのとおり、日本は世界一の食料輸入国です。その食料品というものは、世界各国の穀物自給率という表がありますが、アルゼンチン、オーストラリア、カナダ、アメリカ合衆国、ブラジルの 5 カ国が主要輸出国です。その主要 5 カ国が世界の食料品の輸出をやっているのが大半です。そんな中で、日本の食料事情を見ますと、米は、表ですけど、これは単位が 1,000 トン単位になっております。米の国内消費量は 922 万 2,000 トン、そのうち国内生産が 899 万 8,000 トン、それで自給率が達成できている米でさえ、97 万 8,000 トンが輸入されておるのです。麦は、国内消費量が 849 万 4,000 トン、そのうち国内で 106 万トン、732 万 2,000 トンが輸入されております。トウモロコシに至っては、畜産のえさとしての供給も多いわけですけど、1,613 万トンが消費されているわけです。そのうちの 100%、1,679 万 8,000 トンが輸入されております。そして今、夏場になれば大豆が国内では一生懸命つくられているわけですけど、この大豆に至っては消費量が 434 万トン、そのうちの国内で 22 万 5,000 トン、輸入が 418 万 1,000 トンとなっているようです。穀物全体を見ますと、3,564 万 4,000 トンの消費に対して、国内では 1,009 万トン、輸入が 2,694 万 2,000 トンとなり、カロリーベースで 40% の自給率の確保というものが大きな問題というのが今の現状です。

このようにして、日本人の食べ物のために世界各国で日本の農地の 2.5 倍、1,200 万ヘクタールが使われているのです。しかも、地球温暖化や雨の少ない大地での農業は、大型の深井戸による大量の地下水のくみ取りとなり、自然を破壊して農業が行われているのが世界の食料事情です。

そして、先日、ある講演で聞いたわけですが、今からの世界は中国抜きでは考えられません。その中国で現在、満足に食を満たしている人は日本の人口と同じぐらいの 1 億 3,000 万人と言われております。その人たちが、その中国が 2 年後の北京オリンピックや上海万博と、ビッグイベントの中で、経済成長の中で、人口の 2 割ぐらいの人が日本並みの食料、食をするというふうな時代になるそうです。そうなった場合に、中国は今の農産物の生産量はふえるより、反対に減る可能性が大きいとも言われております。それは、インドも同様な、インドも経済発展をしているわけですけど、インド、中国とたくさんの人口を持っているところが経済発展し、そこが食料の大半を食べるということです。

そんな中、今の畜産は放牧場での飼育から、大量の購入飼料での畜産業になり、家畜のえさとしての穀物が不足し、今、武雄地域の畜産農家も大変苦しんでいるのが畜産の実情です。

それとともに、別の争奪戦が始まりました。それはヨーロッパでの菜種、ブラジルなどの中南米ではサトウキビの燃料としての農産物の争奪戦争です。これが世界の食料事情とまた大きく関連しているわけです。そんな中で、日本の国にどう食品が入ってくるかというものが心配な現状の食料事情です。この点も含めて、市長はこの日本の食料政策にどう思われるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。答弁を開始します。

まず、大きく2点、ここで指摘したいと思います。

1点目が日本の農業政策が甚だ中途半端だということです。というのは、なぜインターの近くに農地があったり、あるいは中心市街地のすぐ真横に農地があったり、およそ先進国でそのような農業政策をやっているところは、ほかに例がありません。したがって、今後、日本が農業政策を進める上では、中途半端に農地を置くのではなくて、例えば、私は橋下です。橋下で、あの広大な面積で、しかも、あの土壌の豊かさと、あの指導的的確さ等々からすれば、武雄では橋下をきちんと見習って、私はそういう大規模かつ集落営農にもマッチしたような農業政策がある。それともう一つが、今荒廃している中山間地については、これは中野のミツバが私は参考になると思います。中野のミツバがうまく中山間地を荒廃地にせずに農地にしているといったことで、この大きく2点を見習いながら、私はめり張りのついた農業政策をやるべきだと。

それともう一点です。所得です。農業生産者の所得は、今つまびらかなデータは持っておりませんが、やっぱりちょっと低かですね。しかし、そういう所得が低いところに次世代が農業経営者として入ってくるということは、なかなか考えにくい。したがって、稼げる農産物をちゃんとつくってほしいということです。そういう意味では、山内のチンゲン菜がその方向性はあると思いますし、ひょっとすれば、レモングラスがそれに化けるかもしれない。ほかの人たちがつくるのと同じではなくて、例えば、有機野菜であったりとか、あるいは鮮度が非常にいい、すぐ出せるといった供給体制も含めて、そういう稼げる農業を今後進めるべきだと、私は思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私も、市長の意見に同感です。私も農業者の一人として、以前は大きな借金というものをして施設園芸をやっていたわけです。そんな中で、常に私が思っていたことが、今、佐賀県で大きく農業地帯として伸びているのは白石、三日月、神埼に唐津だと思います。そこと私

たちの地域とどこが違うか。今市長が言ったように、その地域は農業地帯でありながら、国道べたにはいろんなところで住宅地なり、いろんな産業が張りついているわけです。そんな中で、農地というものが資本として変わり、その資本が農業振興に借入金という形ではなく、同じ資本投資でも自己資本の土地を資本と変えて農業振興がやっているところが大きく違うわけです。そうすれば、最初から腹いっぱい借金をとって、それを払うための農業と豊かな生活をするための農業というものができるわけです。その点が今から武雄でも変わってもらえば、もっといろんな農業が進むんじゃないかなということを私も思っているのです、そこに今市長が言ってくれたのはありがたいなと思っております。

今、それと同時に、武雄の農業を見ますと、きょう幸いにも佐賀県で農業賞というものが、五つの部門があって農業賞があったわけです。そのうちの武雄は三つの部門の農業賞をもらいました。幸いにも、僕のためかどうかわかりませんが、きょうの朝の佐賀新聞に載っていましたので、これを見てもらいます。これです。今言われました中野のミツバ会、これは集落営農の農業賞です。そして、古川幸典君という酪農家、武内での酪農家です。そして、山内町を中心にした武雄市内一円にありますチンゲン菜部会です。この三つが武雄市から農業賞ということで受賞されました。すばらしい、我々農業者としては自慢するものです。

このように、いい芽生えができているのも武雄です。そして、先ほど、橋下の農業ということで言われましたけど、小池議員もおられますように、すばらしいリーダーのもとで、すばらしい環境整備が整えられて、いい農業が、見本があるわけです。それが根づかないのがなぜなのかというものをお尋ねし、農業が栄えれば、地域が栄えれば武雄の町も潤うという観点のもとで、今から質問をしていきたいと思います。

先ほどの食料事情の中で、麦、大豆というものが自給率は10%を切っているわけです。それを世界のことで、まず武雄でどうやったら規模拡大ができ、所得増大につながるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄に決定的に不足しているのは、私は加工所だと思います。なぜ北海道がですね、例えば、これは北海道全体とすれば農業は不振ですけれども、例えば、美瑛、あるいは富良野、あるいは池田、これはなぜ農業生産が伸びているかというと、横にしっかりした加工所があって、すぐ売れるわけですね。富良野にはチーズミュージアムというのがあります。武雄にあるでしょうか。単に生産を呼びかけてみても、やっぱりそれはブランドとして根づかんわけですね。だから、ぜひ、これはJAの皆さんとか農業経営者の皆さんにお願いしたいのは、そがん今金かからんわけです。だから、ぜひ加工所を設けて、そこで即売ができるといったことで、ぜひそういうことを考えてほしい。

例えば、あいているところといえば、カンコロ学校でも出ましたけれども、西川登の保育園であるとか、いろんなあいておるところあるわけですね。JAの橘のあそこも、もうあきよっしゃなかですか。だから、そういったところで、製品を持って行って加工して、付加価値をつけて売っていただければと思います。古川さんの牛乳は、もう立派なブランドになっています。しかし、プラスそこに、例えば、プリンであるとか、チーズであるとか、そういうふうにして加工して売ることができない限りは、私は武雄の農業の未来はないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

加工という話が出たわけです。今、市長は一生懸命、レモングラスを考えているわけですが、このレモングラスで、これが幾らもうかるかなという話が一番大事なことでありますので、ぜひこれをどういうふう加工し、どういうふう所得増大につながるか、道筋をつくってもらいたいと思います。

今、加工の話が出たわけですが、以前、ここでイノシシの話をしました。困って困っておるわけです。それも、おいしく食べれば加工もできる、その点もぜひ、いろんな業者さんとの話し合いの中でできるようにしてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

私は、ここで、今集落営農なり、担い手農業の中で一番進めようとしているのは麦、大豆だと思っているわけです。この麦、大豆をどのように、今は青々として育てております。あともういつときしたら黄金色に輝き、すばらしい麦秋を迎えるわけです。それが本当に実の入るような、金になるような形をとってもらいたいわけです。

聞くとところによりますと、この集落営農なり、認定農業者になれば、規模はどがしこでも太うつくらはうばいというふうな感触で我々農業者は感じていたわけですが、その点、どのようなものになっていますでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

麦、大豆の状況についてお答えをいたしたいと思います。

麦、大豆につきましては、現在、集落営農組織の中で取り組んでいただいているわけですが、いいますけれども、この麦、大豆の生産上の問題点といたしまして、排水が悪い圃場では生育が悪いと。特に麦では、収穫時の天候によります品質低下や生産コスト、稲作の作付時期の問題等がありまして、麦、大豆の拡大が伸び悩んでいるという状況でございます。

それから、平成19年度から実施をされます品目横断的経営安定対策におきましては、生産

コスト対策や収入減による影響を勘案するために、過去の生産実績に基づく支払いが行われておりますけれども、過去の生産実績以上の規模拡大に対する支援策が今のところないというのが問題となっております。

このため、過去の実績がない場合の支援策といたしまして、現在、担い手経営改革促進事業によります支援が検討されているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

○9 番（山口良広君）〔登壇〕

そもそも水田というものの圃場整備は、稲をつくるための圃場整備でした。それで、基幹的な用水路、基幹的な排水路というものができているわけです。しかし、今、夏場には大豆をつくりなさい、冬場には麦をつくって所得拡大をしましょうというふうな形になっているわけです。

そんな中で、今、排水というものが大きく叫ばれておりますので、ぜひ排水対策がどんどん進んでいって、最初に圃場整備をされたときには、全地域が排水事業をなされたわけですけど、その後、排水というものが大型の農機具等の持ち込みによって大分困っているのが現状ですので、その点も含めて、ぜひ排水対策というものを大きくしてもらいたいと思います。その点、よろしくお願いします。

次に、市長は以前、孺恋村の話をよくされておりました。今度の演告でもありますように、武雄のブランドをつくろうということ言っているわけです。その声に孺恋村の村長のよう、今からは農産物や武雄のいろんなものをもって全国にPRしてもらおうことができると思っております。がばいばあちゃんに幸いにも全国ブランドの武雄市になりました。この流れに我々農業者が持つ農産物も、ぜひ乗ってもらって、いろんなところでPRしてもらい、地元で消費するのも結構でしょうけど、地元の消費だけでは我々所得が伸びません。ぜひいろんなところで売り込みをかけてもらい、直通でつながるようなルートができれば、もっと安定的な収入につながるということを感じております。

ここで、今、武雄でできている農産物ということで、品物を持ってきました。これは我々の武雄でできておりますキュウリでございます。これは、昭和57年には天皇賞までもらった全国ブランドのキュウリです。それでこれは、今先ほどの農業賞でありましたチンゲン菜です。この裏にはバーコードをつけて、料理の仕方まで考えられており、いろんなアイデアというものが出ているわけです。こんな販売というものが生産者段階では出ております。このキュウリにしても、先ほど市長が言ったように、明神の里ということで加工施設までつくっております。ほかにも畜産の豚なり、牛なり、またイチゴなり、また一部地域でできております花など、いろんなものがあるわけです。こんなものをいろんなところに、荷物にならんときは荷物に入れてよし、入らんときは宅急便で生産者が送るぐらいの気持ちを持っていま

すので、ぜひPRをしてもらいたいと思いますけど、市長、よろしくお願いします。答弁、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

まず、今、山口議員が御指摘いただいたとは、どこの首長でももうしょっわけですね。そいけんが、私が今キュウリば持っていてもですね、ああ、そうですかと言われるっとなが関の山です。したがって、ちょっとお願いしたいのは、先ほどの話につながりますけれども、ぜひ加工品をつくってほしかわけです。加工品、例えば、キュウリアイス、だれが買うかわからんと思ひよっでしょう。しかし、沖縄ではゴーヤアイスと言ってですね、ゴーヤソフトクリームと言って、余りおいしかか、おいしゅうなかか、わからんです。しかし、買いよんさっわけですよ、250円から300円も出して。あれは原価幾らでしょうか。それを例えば、情報で持っていったりとかですね、おいしければの話ですけれども、そういうふう加工品にぜひしてほしかと思います。

山口議員が一生懸命つくられておるスイートピーです。例えば、スイートピーをですね、それだけ持っていても、全国いろんなところでしょんさあです。ジャムにしてくれんのですか、例えば。そいぎですね、今、ブルガリアとか、バラのジャムってあっじゃなかですか、花びらの。だから、そういうふうにして食に結びつけた加工品、それをぜひつくってほしいというふうに思っています。あのバラのジャムでも1,200円ですよ、1ボトルで。だから、そういうふう単に素材を売り込むのではなくて、そういう加工品をぜひお願いします。そういう意味では、チンゲン菜はチンゲン菜まんじゅうとか、いろんな今あります。そういう意味で、ほかの農産品もそういったことをぜひ考えてほしいと思います。それで行けるといふことになったら、私は積極的に売り込みにいきたいというふうに思っております。

最後になりますけれども、あと海外です。この前、台湾の旅行関係者の方が20人、武雄にお見えになりました。一番人気だったのは何だったでしょうか。イチゴです。イチゴは、本当にもう食べえんと買いよんさったです。あれを台湾に、あの新鮮度のまま持っていくことができたなら、どんなにいいだろうかと。それと、もう一つ言われたのは、もぎたてんとは食べんしゃったわけですね。パックの味と全く違うと、台湾の方が言いんさったです。ということは、もぎたて、今旅行雑誌とかにも載りますけれども、そういうふう旅行に来て、畑に行って、全部とられたら話にならんかもしれせんけれども、そういうふうな摘み取りのシステムもぜひ考えていかなければいけないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○ 9 番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、いろんな形でいいと思います。農業所得の増大こそ、農業振興だと思っておりますので、そのようにつながるような形を生産者団体、行政、またＪＡも含めた、流通までの中で、ぜひ実のあるものができるように期待したいと思います。

次に、食育についてお尋ねします。

先ほどの資料の延長線でありませんが、ここに農林水産省のネットで調べてみましたら、食品廃棄物の現状というものが出てきたわけです。今、食品産業界では、先ほどの穀物なりなんりの大きな数字があったわけですが、全体で食品の産業廃棄物として年間1,136万トンが捨てられているということです。その中には、野菜やら果物など、また魚介類、畜産物の中での、本当に食にされない部分もあるかと思います。そしてまた、１日に2,000万食の食品が食べられずにそのまま捨てられるという事実があることも現状です。それらのものは、一部が堆肥にも、再生利用の堆肥や、またメタンガス等に利用もされていますけど、大半が焼却され、処分されているのが現状です。

このように、先ほど言いましたように、食料品は危機的な状況というものがもうすぐ目の前まで来ているわけです。それをどう子供たちやその親たちに食品の大事さというものも教えるのも食育だと思っていますけど、市長は食育をどういうふうに持っていくつもりでられるか、お尋ねしたいと思います。

○ 議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

何段階かに分けて考えてみます。

第１段階として、私はこども部に食育課を置くといったことから、しつけと、もう一つは選食能力、この二つを２本の基軸に据えたいと思います。しつけについては、食を通じたマナー、あるいは親子との触れ合い等々が大事だといったこと、それともう一つが、選食能力というのは、これはさきの食育サミットが武雄でありました。そのときに、古川康知事がこういう指摘をされました。スーパーに行ったときに、パックのあつですよね。裏ば見たときに、どういったとが入っとうかと。何とかＳ５０とか、わからんとのあつぎんた買わんと。自分がわかるとだけあれば、それは買っていくということで、みずから選ぶ力を持つべきだと、私はこれは本当に同感です。それに限らず、例えば、安全性の高いものをちゃんとわかるといったもの、そういったことをこども部の食育課として第一歩を踏み出していきたいというふうに思っております。

第２段として、これは服部幸應先生が常々お話しされておりますけれども、日本の食料問題であるとか、あるいは議員が再三指摘されています自給率の問題とか、身近なところからちょっと大きくしていくといったことを考えております。

今のところ、２段階で食育課は構成を考えております。

○議長（杉原豊喜君）

９番山口良広議員

○９番（山口良広君）〔登壇〕

それらも含めて、私はしつけと同時に、しつけは大前提、道徳は大前提と考えております。それと同時に、農業の大事さ、食品がこんなにしてつくられているという環境というものをつぶさに見てもらい、そんなものが食育、農育につながるんじゃないかと思っています。そういうふう発展することを期待したいと思います。

そんな中で今、うちの地域のハウスには朝日小学校の子供たちがキュウリ狩りに来たり、また、今度の17日には橘の方からキッズルームの一つとして花摘みの体験等が行われているわけです。いろんな形の体験農業というものが今後進んでいくと思います。そんな中で、食の大事さというものを知ってもらえれば、むだに残すこととか、また経済界で簡単に捨てるというものが減れば、もっと食料事情というものは安定するんじゃないかなということを思っていますので、その点もよろしくお願いします。

次に、どんどん進むわけですけど、市長は、がばいばあちゃんで観光はやってくれということで、私も張り切っていたわけですけど、いろんな方がやられたので、ちょっと僕も困ったわけです。

今、私も地域に淀姫神社ということでがばいばあちゃんの小屋があるわけですけど、その見物のお客がたくさんおります。その後の流れというものが、昨年まではこの議会では武雄温泉新館ということで、大いに温泉新館で盛り上げていこうということで、我々は議論したわけですけど、この流れがもっと温泉通りに流れていけば、もっと武雄の町もにぎわうんじゃないかなと思っていますけど、その点、このがばいばあちゃんであられた観光客の流れというものはどういうふうにとらえられているか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

昨日も答弁をいたしましたけれども、今、１万人近くふえているといった観光客の大部分の方々が市外、あるいは県外に泊まられているというお寒い状況にあります。それで、いかにして、じゃ、武雄の旅館街、あるいはホテルに泊まっていただくかというのは、それはホテル、旅館街の努力にかかっているというふうに思っています。例えて言うと、そういう、例えば、ロケ地めぐりツアーをホテル、あるいは旅館が考えとか、あるいは旅行代理店に営業で売り込みに行くとか、あるいは、きのうも少し申し上げましたけれども、泉ピン子さんとか石田ゆり子さんがお食事されたメニューというのを我々知っとうわけですね。それを各旅館かホテルとかで出してもらおうと、泉ピン子御膳もあっていいと思います。そういうこ

とで、「佐賀のがばいばあちゃん」に乗かった営業戦略をぜひ立ててほしいと思います。これが武雄の観光業界が生き残る一つの道だと、全部とは言いませんけれども、せっかくのチャンスですので、生き残る道だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私もそのとおりだと思います。以前は温泉活用会議など、いろんな形でもっと民間の力というものが反映されていたのもあったかと思います。そういうふうな皆さんと一緒に、行政が観光協会への出向というふうな形もこの前、聞いたわけですけど、そんな形で民間の力と手をつなぐような観光振興ができれば、もっと盛り上がると思います。その点、頑張ってもらいたいと思います。

次に、そういう形の中で、長年の夢でありました武雄の鉄道高架事業がもう完成を間近に迎えております。この鉄道高架ができれば、南北の問題は解決するというふうなもとで押し進めてきたと思います。それがようやく目の前になってきた今、どうこれを持っていくかというものが大事な問題だと思っております。

その点、今、議会でもいろいろ出ていますけど、保養村と保養村の滞在型の施設というものが大いににぎわえばいいんじゃないかなと思っているわけです。その中で、私のところにある提案がありました。それは、宇宙科学館の第4駐車場などいろいろ含めて、今、保養村でもいいわけですけど、パークゴルフやグラウンドゴルフ、ゲートボール等の施設をつくってほしいという話です。それらの施設というものは滞在型の施設となっております。ぜひ、こういうふうな形で進めば、いろんな人が宿泊したり、またこの議会にも取り上げられていますように国民健康保険税の改正が提案されているように、お年寄りの人が元気で長生きして、なるべくお医者さんにかからないような余生というもの、大事だと思います。その点も含めて、こういうふうな施設の建設というものが考えられないか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

保養村の整備の関係でございますけれども、今お尋ねのパークゴルフについては、保養村の一番奥の方のふれあい広場について、今活用していただいています。

それから、もう少し広くできないかというお話があっておりまして、今現在、先日、現地も見てまいっております。それで、宇宙科学館等の施設もございますが、そこら辺支障がなければ、前向きにそういうスペースは活用を図っていきたいということで、これについ

ては先ほどありましたように、高齢者のスポーツ、こちら辺について今後の医療費の抑制等にもつながっていくということで、これについては前向きに検討していきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

聞くところによりますと、来年の10月にはゲートボールの全国大会が佐賀で開かれるそうです。その会場は佐賀の総合グラウンドの中で行われるそうですが、この全国大会というのがグラウンドの中であるというのは全国的には珍しいそうです。また、そのゲートボール団体では、薩長土肥の大会ということで、明治維新の四つの地域、薩摩、長州、土佐、肥前の四つの県での大会というふうなものも行われて、交流が行われているそうです。また、これらのスポーツはゴルフ同様、健康管理のためにもアジア地域でも大いに伸びているそうです。それらを含めたら、ぜひ、こういうふうなスポーツ施設の建設というものも大事なことじゃないかと思っていますので、今すぐどうこうはできませんけど、保養村の構想の中で検討されて、どこかにできれば、宿泊客の増大、健康維持にも大きく貢献すると思いますので、ぜひよろしくお願いします。

最後になりましたけど、中間に出ました国道498のことです。

国道498ということで、今、若木まで路線発表が行われています。この後、インターまでの路線発表というものがなされておられません。これらも今元気な武雄が発展するための大事な要素だと思っています。それと、くしくも市長が言いました周辺部の農地を資本としてかわるような政策費というものをとってもらえれば、農業振興にも大きく貢献するんじゃないかなということをここで訴えたかったわけですけど、その点も含めて、498はどういうふうになるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

おはようございます。

498の件ですけれども、質問者がおっしゃるとおり、若木工区については昨年発表されて、整備が進むように、今現在進められておりますが、それ以外については、現時点では計画路線がわかっておりません。できるだけ早く、残りの分についても路線発表ができるようお願いをしたいということで、今強力に働きかけをいたしているところです。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ早急に、発表があれば、今地域では、今一生懸命、関心事であります農業、水の環境の問題でのいろんな対策というものもつながると思いますので、早急なる路線発表があり、なるだけ早く完成し、地域振興に進み、若者が定住する元気な武雄になることを期待して、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。